

学校関係者評価票

学校名：松戸歯学部附属歯科衛生専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

No.	評価項目	専門学校		学校関係者評価				
		取組状況・評価に対する意見等	取組評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組評価
1	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか	<p>学生の学習、効果的な教育のために、各学年に専任教員からなるクラス担任を設置し、実習などの学外活動や生活面を含めきめ細やかな指導を実施している。</p> <p>1年生の「自主創造の基礎」講義においては、学修技法の基本から、進級条件を含む履修指導を実施しており、学生は3年間の学習と評価の基本方針について学ぶことができる。</p> <p>3年生の「専門歯科衛生士学」科目では、現役の歯科衛生士や院内の業務に関わる人材を講師として招聘し、歯科衛生士として、他職種と協同する医療スタッフの一員として活躍できるような実践的な知識を学ぶことができる。</p> <p>また学生からの質問に応じるオフィスアワーに関しては、各科目シラバスに記載しているほか、教員室では各クラス担任が学生からの学修・学校生活に関する相談を受け付けている。</p>	A	<p>歯科衛生士となるための専門技術を身に付けるためのきめ細かな教育が段階的になされており、また、学内外において、他の職種との連携の重要性を実習を通して体験することができ、在籍中の充実感はもとより、卒業後も、地域の歯科医療に貢献するモチベーションを保ち続けられるのではないかとと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 併設の松戸歯学部が、附属専門学校の運営並びに学生の学習指導及び生活指導を全面的にバックアップしている。 各学年の担任を専門学校の教員から、副担任を松戸歯学部の教員（学事委員）から選出している。 学科目「自主創造」においては、入学後3年間の全体の流れを把握させている。また、常に自分の立ち位置を意識させ、自己フィードバックを繰り返し知識と技能の向上を促すよう教示している。 効果的な学習方法の説明・実践を行っている。 学科目「専門歯科衛生士学」では、国試出題基準にとられない科目として、歯科衛生士の社会的役割を教示している。 	<p>綿密に行われている教育と同様に生活指導のフィールドにも力を注いでいただければ良いと思う。</p> <p>学部との兼任教員によるオフィスアワーについては、必ずしも有効に使われていない。</p>	特記事項なし。	A
2	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>学生の歯科衛生士国家試験の合格と、教育理念・教育目標に合致した学生の育成に向けた学修支援を行うため、教育内容・方法の点検・評価を実施しており、学事委員会及び教員会で審議されている。</p> <p>定期試験の成績を分析し、各学年の成績傾向から課題を検討するほか、外部の模擬試験の成績も、授業内容と学習支援の施策を評価・検証のために利用している。これらに基づいて平成27年度からは教育課程（カリキュラム）を改正した。</p>	A	<p>学事委員会及び教員会では、個別に緻密な成績分析がなされており、それが教育課程の編成に反映されていると評価できる。</p> <p>カリキュラムを学生に明示することにより、履修概念を植え付け自主的に行動するよう図られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全ての科目に対して学生アンケートを実施し、点検・評価を行っている。 必要であれば直接、講師にフィードバックし、シラバスの点検・評価をしている。 長らく行われていた教育課程を抜本的に見直した平成27年度カリキュラムは、魅力的なものとなっている。 各科目の平均点を全てグラフ化し、講師会の際に提示し、再考を求め、厳格な成績評価を目指している。 	<p>現行カリキュラムは平成27年度ということであるが、法改正の有無にかかわらず、カリキュラムのチェックを継続して行っていただき、長期的な評価検証をしていただきたい。</p>	特記事項なし。	A
3	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	<p>入学者に関しては、充足率のみを求めるのではなく、入学者受け入れに関しては本校の教育理念に基づく入学者をもって定員数を確保する努力を続けている。</p> <p>各入学試験の可否に関しては、採点結果に基づき、教員を代表する学校長、松戸歯学部長、副校長、教務主任及び事務局の代表である事務局長等が構成する「入試委員会」にて慎重に審議を行っている。小論文試験で思考力や表現力を測るほか、面接試験においては専任教員・学事委員の教員が面接官を担当し、態度やコミュニケーション能力を総合的に判断し、将来的に歯科衛生士となるのに相応しい受験生を選抜することに務めている。</p>	A	<p>募集については、年間行事に組み込まれている体験入学及び進学説明会に加え、随時、学校見学の対応もなされており、活発に行われていると言える。</p> <p>入学者選抜においては、併設の松戸歯学部の教職員の執行部を交え、組織的かつ厳正に行われていることが伺える。特に、入学者の8割を占めるAO入試においては、体験入学の参加が必須となっており、厳密に適性が図られていることがわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国の歯科衛生士専門学校の約60%が定員割れしている中で、毎年定員をほぼ確保している。 年5回の体験入学では、専門学校の学生による実習を行い、入学後に学習する学科目の説明や、歯科衛生士の社会的な役割など十分な説明がなされている。 説明された事項を受け入れる意思を持った受験生に対して選抜を行っている。 面接の際、評価する項目を設定し、2度に分けて計4名の面接官による多面的な評価を行っている。 	<p>今後も、出題あるいは採点等に遺漏がないよう努めていただきたい。また、受験校の志望理由は、国家試験合格率がもっとも重視されるので、より一層の国試対応のプログラムの充実を図っていただきたい。</p>	特記事項なし。	A

学校関係者評価票

学校名：松戸歯学部附属歯科衛生専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

No.	評価項目	専門学校		学校関係者評価				
		取組状況・評価に対する意見等	取組評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組評価
4	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	入学後の成績に関しては教学IR委員会にて分析を行った内容を、学事委員会、入学試験委員会が中心となり、点検・評価を行っている。前年度までの入学試験の志願者数の推移や、他の歯科衛生専門学校の入試情報にも基づき、必要と認められた場合には募集人員や入学試験日程の変更を行っている。 指定校推薦入学試験に関しては、3年ごとに指定校及び推薦基準（評定平均値）に基づき見直しを行っている。また、平成29年度からは将来歯科衛生士を志望し、早期から本校への入学を希望している受験生を対象としたAO入学試験を実施している。 また例年、専任教員・学事委員を中心として近隣の高等学校への情宣活動を実施し、学校の特色、受験案内について周知を行っている。	A	入学後の成績が緻密にかつ客観的に分析され、適切な点検・評価が行われていると言える。また、点検・評価結果をフィードバックする体制も整っており、PDCAサイクルが機能していることが、安定した志願者数の確保につながっていると考えられる。	・学生の受け入れの適切性に関しては、入試区分（AO入学試験、指定校推薦入学試験、公募推薦入学試験、一般入試、社会人入試）別に数年及び入試結果及び入学後の成績を分析・評価している。 ・分析データを基に改善・向上に向けた取り組みを行っている。 ・より多くの者が体験入学及びAO入試を受けられるように、日程の精査が十分に行われている。	特に問題点は見当たらない。	特記事項なし。	A
5	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	教員の教育・研究、学内運営、社会貢献等の活動状況に対する評価を行う活動は実施していない。 教育目標である学生の国家試験合格を達成するために、高度な知識と技術を持った教員の質向上は必要不可欠であり、教員には授業評価アンケートの実施、FD講習会、ワークショップ等への積極的な参加を呼び掛けている。 授業を担当する教員は松戸歯学部の教員であるため、採用初年度のFDワークショップや、定期的に学内で開催されるFD講習会・講演会への参加を通して、FD活動に関しては十分に実施されていると考えている。 また、本校の専任教員には、歯科衛生士専任教員講習会（全国歯科衛生士教育協議会主催）を計画的に受講し、「専任教員認定歯科衛生士」の資格を得るよう指導している。	B	教員から教員へなされる教育が行き届いており、教育を受けた側の教員の積極的な態度も伺える。また、新任教員への啓蒙活動も高く評価される。 今後は、FDにおける活動状況を把握し評価する体制が整えられることが望まれる。	・大学の付属であるという優位性を活かし、学部全体のFD講習会、ワークショップ等へ積極的に参加をしている。 ・歯科衛生士に対する専門的な外部主催の講習会にも参加でき、その予算措置も施されている。	併設の松戸歯学部のFD活動が活発であるためか、同学部のFD委員会主催の行事等を利用する形になることが多く、そのこと自体はとても合理的で有益なことであるが、歯科衛生専門学校の中でも同様の組織があってよいかと感じた。	特記事項なし。	B
6	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	専修学校設置基準及び学則に基づき各教員数の配置が適切となっているか点検・評価を行っている。 松戸歯学部の教員は資格、業績、年齢等を考慮して推挙されているため、本校独自の採用計画は策定していないが、今日までに問題は生じていない。	B	教員数については、専修学校設置基準及び学則を充足しており適切である。また、授業科目担当者についても、併設の松戸歯学部の教員の支援もあり非常に充実している。 経営的側面からも勘案しても、兼任教員に委嘱することにより、人件費を最小限に抑えていると言える。	・各種委員会については、学事委員会に属する学部の教員を適材・適所に振り分けて運営している。 ・上記委員会のメンバーは、毎年見直されている。	当面は、現行の人員で生徒あるいは地域社会のミニマムリクアイアメントに応じられると推測できるが、今後は、世代交代を視野に入れ、教員養成のプログラム作成なども検討してみてもどうかと思う。	特記事項なし。	B

学校関係者評価票

学校名：松戸歯学部附属歯科衛生専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の実績が取組が適切かどうか

No.	評価項目	専門学校		学校関係者評価				
		取組状況・評価に対する意見等	取組評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組評価
7	進路指導における重点目標	<p>1年生に対しては、学科目「自主創造」の授業内で、卒業までの全体の流れ及び効果的な学習方法を説明する。また、「学生生活アンケート」と「学力調査」を基に、校長、担任、学生で三者面談を行い、通勤時間、アルバイト・クラブ活動等の有無と時間等を勘案し、個人の生活環境に応じた勉強時間をアドバイスしている。更に、全科目で行われる平常試験の結果を随時担当者から入手し、それまでの結果と比較することで、いち早く学生のモチベーションの変化を察知し、必要であれば面談を実施する。</p> <p>2年生に対しては、準備学習を充実させるため、各診療科のレポート題名を事前に公表している。また、病院内の教育の充実のために、学生による各診療科に対する評価アンケートを実施している。</p> <p>3年生に対しては、教員で構成される「国試対策委員会」とは別に学生により構成される「国試対策学生委員会」を設置し、生徒の意見を取り入れ、国家試験合格に向けて効率的かつ有効なプログラムを構築している。</p>	A	<p>効率的な指導が段階的になされており、国家試験の合格率が高いことが納得できる。</p> <p>また、学生により構成される委員会の発足は実に画期的であり、「自ら考える」能力の育成が期待され、まさに教育理念である「自主創造」を体現している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に卒業までの全体的な説明がなされ、早い時期に学修到達目標が設定できる。 ・常に1人1人に目が配られているため、ルーザーの発生を事前に防げている。 ・学習の段階に応じた指導がなされている。 ・教員が提供する教育プログラムを受け身で学習するだけでなく、主体的に学んでいくシステムが構築されている。 ・国家試験合格というミニマムリクアイアメントに留まらず、クリティカルシンキングも養われている。 	<p>「国試対策学生委員会」においては、今後も専門学校と学生の懸け橋になってもらうべく、今後も継続して活動していただきたいところであるが、委員会の学生が負担に感じることがないよう御配慮いただきたい。</p>	特記事項なし。	A